

ＪＩＣＡ２０１８年度課題別研修

「中米統合機構加盟国向け 道の駅幹線道路沿線地域開発」コースを受け入れました。

平成３０年８月１７日から９月１４日にかけて、中米統合機構加盟国のうち、エルサルバドル、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、ドミニカ共和国、パナマの６か国から、行政官等１０名が参加する研修（受託機関 一般社団法人北海道開発技術センター、コースリーダー 松田泰明氏）を受け入れました。

中米地域では都市部と農村部を結ぶ幹線道路の整備とその沿線の地域開発が重要な課題となっており、ＪＩＣＡからの依頼を受け、北海道開発局は、国が注力した北海道総合開発の経験を伝えることは参加国の地域開発の質の向上に資するとの考えにより、中米各国の行政官を対象とした本研修の実施に協力いたしました。

本研修では日本における幹線道路沿線の地域開発において「道の駅」が担う役割を、座学やディスカッション、視察を通じて様々な観点から学習したほか、シーニックバイウェイの取組、公的機関による地域振興のための取組などもプログラムに盛り込まれ、北海道における地域開発の手法が幅広く紹介されました。

なお、本研修は昨年度に引き続き２回目の開催となりました。

【北海道開発局長表敬訪問】



佐藤開発監理部長と記念撮影

【研修の様子】

本研修は、コースリーダーの国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 松田総括主任研究員を中心に、道の駅と沿線地域開発に関わる数多くの知見を、熱意を持って研修員に伝えていただきました。数多くの講義及び現地視察を通して、日本の地域開発の成功事例を積極的に学ぼうという研修員の前向きな姿勢が伺えました。

研修の終盤にはアクションプラン発表会が行われ、研修で学んだ知識及び経験を自国の地域開発にどのように生かすかについて、研修員一人一人からの発表がありました。

研修期間中の９月６日には北海道胆振東部地震が発生しました。同日、研修員は視察のため網走方面に滞在しており、停電にも遭遇しましたが、当局職員がＪＩＣＡと連携して行程変更、移動手段確保など迅速な対応を行い、無事に研修を終えることができました。



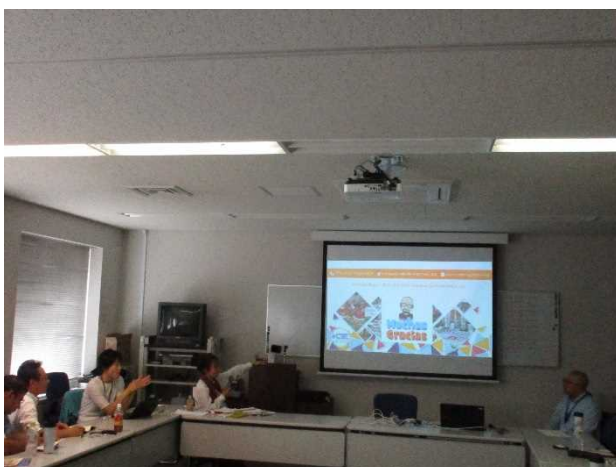
北欧の風 道の駅とうべつ



道の駅 三笠での説明の様子



課題整理のためのディスカッションの様子



「アクションプラン」発表会の様子

【閉講式】



JICA 北海道次長から修了証書の授与



研修員を代表してコスタリカの研修員から挨拶

閉講式では、JICA 北海道次長から各研修員に修了証書が授与され、北海道開発局からは開発計画課長が本研修協力機関として挨拶しました。研修員代表からは本研修関係者への感謝の意と、研修内容を今後の業務において活用していくことへの抱負が述べられました。中米の地域開発に本研修が活かされることが期待されます。